

4—33—1
(表紙)

天明五年巳十一月八日

若旦那様御婚礼ニ附

鳥取江罷出候道中并鳥府ニ而日記



改
十年木

(貼紙)

「天明五年より文久二年迄

七十八年ニ成」

5 4 3 2
(白紙)
(白紙)
(白紙)

一 十一月一日米子出足其節見立之衆中ら江

勝田社ニ而暇乞申、御来屋ニ而昼飯、七ツ時過ニ
赤崎嶋屋方ニ一宿、翌三日朝八ツ時ニ出立ニ而
つはなみ村ニ而夜明申候、夫より油良村丈吉方へ
立寄丈吉同道ニ而□□米屋弥右衛門方参り

手代太助ハ谷本方へ見舞よせ長瀬ニ而

出合申候、昼飯たゞ、扱はた屋へ七ツ時到着
かわ屋方ニ一宿、翌四日六ツ時出立、小山池の
辺ニ而昼飯たゞ、八ツ半時ニ鳥取ニ到着致ス

6

いもし橋ニ而駕籠より下り宮本助右衛門後藤七左衛門
私三人同道ニ而御下屋敷牛尾五郎右衛門様江

罷出候所、御上屋敷被成御出御逢□上村様江も
罷出候所、右同断、牛尾九郎右衛門様も右同断

夫より二階町平野屋清次郎方へ参、袴羽織

ニ而上御屋敷御勘定場へ罷出石田儀兵衛殿へ

御目かゝり御添書指出申候所、御役人様方御承知

先ハ御休足申哉被仰出候、宿平野やへ罷帰候

同五日昼時迄音物取揃助右衛門と兩人出勤

御下屋敷五郎右衛門様源藏様水原東草野

7

牛尾小頭源内上村小頭清兵衛方江も相勤、夫より

中屋敷高坂馬渕岡本參、夫より新屋敷

石田儀兵衛殿方參、夫より向屋敷源左衛門様へ

罷出御上屋敷庄左衛門様方へ御伺申内に

御荷物少々参拝見いたし申候、又御馬屋并

上田得兵衛殿宅ニも御婚礼之節御迎之馬具ニ

候も拝見申候、其内米子道中出合同道ニ御家中

一見仕候内、追々權現堂近辺へ参候ニ付、序之

参詣申度義申者有之、直不残参詣仕候、暮々ニ

宿へ罷帰候、七左衛門も出勤仕候所、暮々罷帰候

七左衛門申様、先刻石田儀兵衛殿被申候ハ明日ハ

御荷物参候間、麻上下ニ罷出候様被仰渡候由、七左衛門

より申聞申候、且又夜ニ入村瀬千太郎様しかの海道

和田屋平治郎様の宅御出候付、七左衛門助右衛門同道

ニ而見舞申候

一六日朝飯後御上屋敷御勘定場へ

麻上下ニ而出勤、石田儀兵衛殿へ掛御目

暫有之、牛尾九郎右衛門様始掛御目

何角御頼申置候、夫より御式台へ

罷出御帳面付もらひ候、其節之

書付左之通

次ニ

大谷政太郎

遠藤与三左衛門

宮本助右衛門

舟越治郎左衛門

後藤七左衛門

のなミ屋常五郎

出雲屋与吉

□□屋清兵衛

右之通書付を以申上候、夫より

御勘定場録之詰場へ参居申候内

石田様より酒肴御持參、又上田得兵衛殿

より酒肴御持參、皆々御盃宛呑候

一七日早朝御上屋敷へ罷出、庄左衛門様ニ掛

御目申候ニ付、助右衛門と私申上候ハ、明日御迎之義
并其節衣服之義ハ絹布ニ仕哉、又ハ綿

10

9

8

2

服ニ仕候哉_与相伺申候所、庄左衛門様被仰候_{二者}

屋敷内_{ニ而}も、のしめ着申者ハ藝州より

被參候衆中へ対面之者計、其外ハ皆

絹服之由、左候得_者其方達も其通_{ニ而}

先年之例も有之候ハ、御迎ニ被出□□□□

被仰候ニ付、私より申上候_{二者}元文年中

11

津田様_ト御屋御婚礼御祝年之節

祖父九右衛門御歛_ニ出府仕候砌も御迎之
節ニハ一寸御門内_{ニ而}

公方様拝領仕居申候御紋御時服

着仕候、例之通此度も何卒着仕候度
相伺申候所、庄左衛門様被仰候ハ夫_者

年久敷事只今_{ニ而}用捨仕可能之由

被仰候得共先例申立候得ハ隨分着

相成候得共何角被申候_而ハ内願之

12

指障ニも相成候間、御意次第と申上置て
罷帰候節、序ニ御下屋敷牛尾様上村様へ

罷出候處、五郎右衛門様_{ニ而}ハ源内殿を以被仰出候ハ

今明日ハ至_{ニ而}御用多、殊ニ只今□様居申候節

御婚礼後寛々御逢被成候由、源藏様ハ

早朝より御屋敷へ御出勤、依之惣左衛門様

御逢被成四方山の咄いたし、扱夫より朝飯
たへ、又御上敷御勘定場出勤いたし

其後ニ馬場拝見申候所、志摩様

御ニ男様并福田丹後様御乗被成候を

13

ゆるく致拝見候罷帰候

一 八日朝五ツ時分麻上下_{ニ而}御勘定場迄出勤

夫より銘々詰所へ罷出候内、御並前様方追々
御出被成候を拝見仕候内、九ツ時分御轡入

之由、先年_ト御屋敷_ニ御上臈様亘様へ御出被成候節
同苗共御見立申上候通、御門内並木松

之根ニ迄御迎ニ罷出居申候内、御行烈

賑々敷御機嫌宜御入被遊候、夫より

御支度被仰付一汁三菜御勘定場

14

玄関ニ而給申事、又詰所へ参居申候

然ル所漸日暮ニ成申候所夜九ツ過ニ御客様方

御帰被成候ニ付御式台番御中小性衆中と

陰ニはいより御並様方御帰致拝見候、且又

田鍋と申もの案内ニ而御座敷一寸御座敷

致拝見候、八ツ時罷帰申事

一九日朝五ツ時上下ニ而御上屋敷へ御歛ニ罷出

御式台へ書付を以御帳面ニ被付 もらひ

申候、夫より御下屋敷へ参、牛尾五郎右衛門様ニ

上村源藏様九郎右衛門様弥兵衛様金左衛門様

15

右五人様參御歛申上候事

一十日五ツ時、上下ニ而御上屋敷へ罷出詰所ニ居

申候内、藝州様より御使者とシテ大勢御出被成

釣台ニ而御進物參候を致拝見候、此日も

七ツ時御支度被仰付候御勘定場之

玄関ニ而給申候ニ夜四ツ時ニ罷帰候事

一一日朝五ツ時、袴羽織ニ而御上屋敷罷出

御坊主衆を以相頼九郎右衛門様ニいま御逢被遣候様

申上候所、追付御逢被成候内、暫有之九郎右衛門様

16

銘々詰所へ■出被成候ニ付、私より申上候ハ此度

御上様へ御目見へ之節獻上之義ハ若旦那様

へも別ニ献上仕候哉、此段御評義可被遣并

御料理申節ハ先年も後藤共与ハ同席仕候

町庄屋共ハ別間ニ而御料理被仰付候、此度も

先年之通銘々三人ハ別間ニ而被仰付被下様

申上候所御承知之由被仰候後刻迄ニ獻上之

義被仰出候由被仰御奥へ御入被成候、暫有候て

又御出被成而被仰聞候ニハ此度獻上ものハ一品

17

御両殿様御請被為遊候間、一品_{二而}可然由
被仰付奉畏罷帰候事

一 十二日ハ御上様之献上もの取調申一切出勤
不申候、暮六ツ時牛尾九郎右衛門様より左之通
御手紙被遣候

大谷政太郎殿

牛尾九郎右衛門

今般之御祝儀_二付

明十三日四ツ時

18

御目見被仰付

已後御料理被遣候間

御出可有之候、以上

十一月十二日

右之通申参候_二付即刻袴羽織候_{二而}
御下屋敷牛尾五郎右衛門様源藏様
裏判九郎右衛門様も御請_二罷出候事

19

一 十三日_{自前}上下_{二而}朝五ツ時御上屋敷御勘定場

迄献上分釣台_{二而}為持遣候、跡より罷出候所
四ツ時分御目見被仰付候一番_二米子惣代

不和助右衛門二番大谷政太郎三番宮本助右衛門
四番後藤七左衛門此四人ハ御老役牛尾
五郎右衛門様御同役上村源藏様村瀬
庄左衛門様之内御壹人五郎右衛門様御脇披露
被遊候、御口上ハ今般之御悦_二付御目見被
仰付難有奉存申候と被仰上候、私獻上を

20

御取次被下候ハ御給人田邊幸之進様
宮本助右衛門分ハ馬渕儀左衛門様御取次
遠藤以下ハ御脇披露牛尾九郎右衛門様
御獻上御取次、御近習藤田十藏殿并
御料理被遣候節ハ御弓之間之上の間_{二而}
私助右衛門七左衛門右三人、其次_{二而}遠藤より
以下之面々則御座敷之御図左之通

(六つの区切りの図の内五つの文字)

(縦書き) 壱間半の御内縁

(横書き) 後藤七左衛門

宮本助右衛門

大谷政太郎

(縦書き) 是より遠藤以下

御共之間

御式台

2
1

右之通首尾能御目見相仕舞并御料理
ゆるく頂戴仕候内、御老役様方御挨拶
之節ハ私共三人御弓間迄下り御挨拶を
請申事、其外九郎右衛門様源左衛門様方ハ
度々御挨拶被遊候并御上様より御酒
被遣候節ハ九郎右衛門様より私へ御盃被仰付候
夫下座へ相廻数遍頂戴申候事御膳相済

被入御念候御菓子三ツもり御茶ハ御坊主衆
手前^ニて薄茶被遣、夫御暇乞申上御門外へ
出申候^而又御礼として其足^ニ而御屋敷へ罷出

2
2

御式台へ御礼^ニ罷出候事、夫より庄左衛門様
五郎右衛門様源藏様九郎右衛門様迄相仕舞
申候事、尤其晚四ツ時前也、且又罷帰候而
首尾能相仕舞候故内祝申候事

一
十四日七左衛門助右衛門同道^ニ而河下御下屋敷

拝見^ニ参、其序^ニ小林政右衛門様へ罷出候處
掛御目候条内願之趣委細相頼罷帰候事
且又御下屋敷東市右衛門様^ニ米子より
出府被成候、甚兵衛様御逗留故御同^ニ

2
3

罷出候、且又内願之次第具相頼申候
事、其後挂り^ニ木村栄治郎様罷出候

□今日ハ不快候由取次被申出候^ニ付兼^而咄候
置旧記一冊願書之写取次を以指出置
罷帰候事

一 十六日早朝御下屋敷九郎右衛門様罷出候所掛

御目候付、私申上候ハ私旧格之義ハ継目之節

出府仕候^而御札申上來候處、十年已前

私之家格被仰付候節其段先規之通

24

出府仕度候儀相願候處、御時節柄以先御

飛脚を以相仕舞、折を以出府候節、右

御老中様方へも罷出候様被仰渡候故無拠

乍恐飛脚を以御□聞申上置候間

此度之御歎^ニ參上候得ハケ様成能折

も御坐候間乍御面倒相□候様^ニ

被仰付可被下候由御頼申上置、其外

四方山の咄仕罷帰候事

同日草野様東様へ罷出内願之趣

逐一御頼申上置候事

25

一 同日村瀬庄左衛門様處御伺罷出候得共

御上屋敷へ御出勤故不掛御目罷帰候事

一 同日松村様へ此間酒肴被遣候節、若旦那様

御見舞被下候^ニ付御札^ニ罷出候得共御客も

御坐候^ニ付御子息様へ掛御目罷帰候事

一 同日夕源左衛門様へ罷出内願之筋委細

申上候所悉御承知^ニ御坐候御馳走被仰付

ゆる／＼物語申上置候事

一 同夕納屋佐一郎方居申四人明日罷帰候^ニ付

暇乞^ニ參候事

26

一 十六日平服^ニ助右衛門七左衛門私三人連^ニ而

御下屋敷九郎右衛門様御方へ罷出申上候^ニハ

御並様方へ御目見之儀申上度旨御評義

被下候様^ニ御頼申上罷帰候事、夫より五郎右衛門様^ハ

御伺^ニ罷出候處、御逢被成候^ニ付何角御札申上

并是又御並様方へ罷出度旨申上候處

御承知之事、尤内願之筋ハ追^而可申上様

申上置候事、又御上屋敷庄左衛門様所へ

右之御伺^ニ罷出候得共御出勤^ニ付不掛御目候

一 同日和田様御下屋敷○坂井六兵衛様并

神田七郎右衛門様伊織様御内石下傳左衛門様
○藤原藤八郎様千葉之助様御内白山十兵衛様
東原權兵衛様平右衛門様御内田川庄左衛門殿
同御下屋敷砂川源五右衛門様并吉岡仁兵衛様

右之門数相勤罷帰候事、且又同夕

木村栄治郎様へ見舞申候、夫より枚村様へ
罷出候處御門外へ早御出被成候付乍立

御伺申上候所、書付等ハ御屋敷へ持参候様

被仰聞候故、源左衛門様御宅へ持参申候所
御女中へ相頼申置罷帰候事

同夕石田儀兵衛殿より預案内三人共ニ
致推參深更および帰申事

一 十七日朝早天ニ村瀬庄左衛門様へ罷出候而
御並様方へ罷出候義相願候處御承知故
罷出候、御門數書付入御覽申候事
且又其節庄左衛門様より被仰候ニハ此度
之御祝義御用之義も大方昨日迄相済

申候ニ付米子ニ而承申所之願書等も

今日より評義申候事并其方内願之筋
も今日より可申上と存候事と被仰聞
尚又委細御頼申置候事、將又

源左衛門様罷出当四月米子表へ指出
申候所之願書之写拵入御覽、尚又具
御頼申上候而罷帰候、夫より又右一冊
庄左衛門様迄致持参候所御上屋敷
御出被遊候ニ付御帰被遊候迄御取次被下候様ニ

□□殿市□兵衛殿を相頼申置罷帰候事

尤若旦那様御馬場有之候ニ付

暫時奉拝見仕候事

一 十八日朝飯後助右衛門と同道ニ而上村様
罷出、兩人共御並様方罷出候義相願申上

并私義ハ内願之筋委御願申上置候事

且又昼時より志摩様御下屋敷江罷出

田井庄瀬中様文村文之丞様序ニ儀右衛門

方へ見舞夫より瓦町林新兵衛様方へ

3
1

罷出候帰掛ニ伊吹元昌様へ致推参候、帰候處石田儀兵衛殿より左之通御手紙申参候

大谷政太郎様
宮本助右衛門様 石田儀兵衛

口話

弥御平安被成御座候處珍重ニ奉存候然ハ御役頭急々懸御目度有之候由自私申進吳様ニ被頼申候付申進候只今之内御役所迄御出可被成候

3
2

尤御壺人ニ而宜敷由ニ御座候、已上

十一月十八日

右之通手紙參候ニ付即刻私

御勘定場迄罷出候所九郎右衛門様より

被仰渡候ハ只今別紙書付之通被參候間

□道相心得候様被仰渡候

志摩様御目見、明十九日八ツ時

千葉之助様御目見、明後廿日朝飯後

3
3

右之通被仰渡候ニ付右之御請ニ庄左衛門様

五郎右衛門様源藏様九郎右衛門様へ罷出候事

一志摩様へ之御添使者御中小性田邊弥次左衛門殿へ被仰付候ニ付此方へも參致挨拶申置候事

一志摩様御家臣田井庄三郎様、此へも御請ニ罷出候事并千葉之助様御内白山東原

氏へも罷出候事、同夕五郎右衛門様より被仰渡候

ニハ只今伊織之助様御内下石藤原より左之通申参候間、源藏様へ罷出御紙面

入御覽申候由被仰聞候ニ付、其段申上置候事

3
4

一 私内願之義も其序ニ五郎右衛門様へも

委御願申上置候事并旧記一冊五郎右衛門様

へ入御覽置其段も源藏様へ申上候事

一 九郎右衛門様又罷出候而私申上候ニハ明日

志摩様へ御目見被仰付候間、其節

殿様より先祖之者共頂戴仕居申御上下
着仕度奉存候、尤親共繼目候節も出府

仕候節着仕候間此段御達申上候にて

申上候得ハ隨分不苦様被思召候事

一 十九日早天より志摩様迄献上之樹等

35

拵置候所ニ四ツ時ニ牛尾九郎右衛門様より御手紙
被仰下候文言左之通

一 廿日朝飯後早々伊織之助様へ御目見

被仰付候ニ付献上之煎海鼠一折家來ニ

為持御添使者御中小姓中村健治殿へ

方迄助右衛門と兩人致推參候、夫より同道ニ而

伊織之助様御屋敷へ罷出候事、則

殿様より先祖之者共挙領仕候

御紋之御上下着仕而罷出候、御目見

之節ハ御給人上村喜兵衛様獻上もの御披露被下

五ツ時首尾宜御目見候、其節

36

伊織之助様より御言葉ニハ入念候而被出候との

御意被遊候、引しげり候事、且又御家臣

下石傳左衛門様ニハ故障ニ付出勤無之故御同役

藤原庄右衛門様ニ掛御目申、又御下屋敷より

御両家へ罷出御目見被仰付難有候旨御礼

申上候處、傳左衛門様ニハ掛御目申候事

夫より御上屋敷御勘定場へ罷出九郎右衛門様へ

御礼申上候并庄左衛門様五郎右衛門様源藏様

江も罷出御礼申上候事

37

一 廿一日夕源藏様へ罷出候處不掛御目罷帰候事

一 廿三日九郎右衛門様より以手紙御上屋敷へ罷出候様

被仰付、即刻助右衛門同道仕罷出候所、九郎右衛門様より

38

被仰候ハ明後廿四日、左門様御目見
被仰付候間申来候間早々御家臣衆迄

御請罷出候様被仰、直々御請ニ罷出候事

一 庄左衛門様源藏様五郎右衛門様へ罷出候事

一 同日小林氏へも罷出候□□同夕

弥次兵衛様へも罷出候事

39

一 廿三日御勘定場迄罷出候様九郎右衛門様より申参
即刻罷出候處被仰渡候ニハ明日志摩様并
千葉之助様左門様罷出候様申来候間
則別紙之通刻限候間間違なく様

罷出候様仰渡候事

志摩様、明朝飯後早々

左門様、明日四ツ時

40

千葉之助様、明朝飯後早々
甲斐様よりハ御式台迄勝手

次第ニ罷出候様

右之通被仰渡候ニ付直ニ御家臣

衆中へ御請ニ相廻候事

一 廿四日朝飯後早々上下ニ而御添使者

津村才兵衛殿宅迄助右衛門と同道ニ而

参、千葉之助様江罷出首尾宜御目見

41

仕候、夫より志摩様江御目見ニ仕候、且又

左門様江罷出首尾宜御目見仕候

夫より甲斐様江罷出候得共御病氣ニ付

御目見不仕候得共獻上もの指出候事

御添使者ハ甲斐様御門外ニ而暇乞

いたし、夫より皆様御家臣衆中江

御挨拶ニ罷出候并御上様御下屋敷

御老役并九郎右衛門様且又津村殿へも
致推參候事

42

一 同日御勘定場ニ而九郎右衛門様より被仰候
ニハ明朝飯後御上下被仰付候間

罷出候様被仰渡候事

一 廿五日朝飯後早々御勘定場迄

助右衛門七左衛門私三人連^{二而}罷出候處

九郎右衛門様より被仰候^{ニハ}今般之御祝義^{ニ付}

御上下被仰付候也と被仰、則御上下一具

被仰付助右衛門も同様七左衛門^{江者}此度之

御祝義^{ニハ}御上下御折紙并先年

頂戴居申候御上下と申候^而木綿^{二而}壹重物

43

御紋付頂戴申候事、右^{ニ付}御式台へ

拝領申候御上下を着し候て罷出、今般之

御祝義^{ニ付}御上下御拝領被仰付難有

奉存候と申上候、夫より御下屋敷

御老役并九郎右衛門様御屋敷へ右之

御礼罷出候事、勿論頂戴申候御上下

^{二而}廻申候事

一 同夕上村源藏様御伺^ニ參上仕候所

一汁三菜之御馳走被仰付寛々と

咄仕深更迄居申候、罷帰候事

一 廿六日五ツ時助右衛門七左衛門帰国^{ニ付}千代川迄

見立申候、其帰懸^{ニふる}の松原御茶屋

□□候事、同夕源藏様へ昨夜の御札^ニ

致推參候事、其序^ニ東市右衛門様へ

伺^ニ罷出候所御留守、九郎右衛門様へ伺^ニ

罷出候所是又御留守故口上^{二而}申上

義候、此間ハ御上様御祝義之干鰯

三人の者被遣難有奉存候、右^ニ

罷出候、尤

44

助右衛門七左衛門義ハ今朝帰國仕候^{ニ付}

乍憚私より宜申上吳候様相頼置

罷帰候、此等之趣九郎右衛門様御帰被成候ハ、

宜様御取次御頼申候と女中頼置候

夫より木村様罷出候得共不掛御目罷帰候

一 廿七日三刀屋六郎兵衛殿被參候^{ニ付}長咄

45

いたし出勤不申候、尤同夕大工町
平野屋甚治郎殿宅へ清三郎殿同道
参候所、奥の間へ通段々預馳走八ツ時
過迄も居申候趣相伴として京都

46

茶師の手代大津屋政太郎殿

是又何角内願之趣も荒々相頼申置候

御事随分被致承知候

一 廿八日昼時より亘様御家臣若原氏へ
小川氏へ致伺公候所小吉右衛門様^{ニハ}

御留主故音物計指出頼置罷帰候事

弥助様^{ニハ}掛御目罷帰候事

夫より五郎右衛門様源藏様九郎右衛門様

47

弥次郎兵衛様源左衛門様江当日之御礼^ニ

罷出、其序^ニ石田儀兵衛殿宅罷出候

夫より伊藤清左衛門殿方見舞致候事

同日顕功寺へ先日菓子被呉候由

礼参候事

一廿九日昼時過^ニ平野屋甚治郎殿方へ

此間之礼致推参候所、又々段々預地走

罷帰候事、同夕九郎右衛門様へ明日御礼

48

之義伺^ニ罷出候得共少々御氣分悪しく候故

不被成御逢申候故罷帰候事

一十二月朔日朝飯後早々御上屋敷江

当日之御礼として麻上下^{ニ而}罷出候處余り

早々故御役人様方未御出勤無之^ニ付

(ママ) 村 村様へ当日之御礼^ニ伺公申候處御逢被成

依之願之趣共又々委敷御頼申置候

并伺申上候^{ニハ}当日之御礼御式台^ニ

49

罷出候^而御帳面^ニ付もらひ申度旨を

源左衛門様へ相伺申候處、至極尤之由^ニ

被仰聞、即刻例之通御裏御玄関

之方より御式台罷出私より申上候ニハ

大谷政太郎当日御礼奉參上仕候、先以

寒冷之節御上様益御機嫌宜

恐悦至極奉存候、御序之節宜様

奉願上候^与申上候事、夫より御下屋敷

五郎右衛門様源藏様九郎右衛門様并

50

市郎右衛門様弥二兵衛様政右衛門様江も当日
之御礼ニ罷出候、九郎右衛門様五郎右衛門様ニハ
御門内^{ニ而}一寸掛御目申候^{ニ而}罷帰候事

同夕平野屋甚治郎被參候付、八ツ時分致
地走候、尤相伴市場屋甚蔵殿三田屋

六郎兵衛殿平清殿

一二日少々氣分不勝候付、出勤不申候事

一三日安十郎様御義鶴殿様へ御入被遊

候ニ付上下^{ニ而}御式台迄御歎ニ罷出候事

并御老役様九郎右衛門様草様寺嶋様
枚様香坂様^江も罷出候事、且又今般北
安十郎様御祝義ニ付肴等献上仕度之旨
相伺申上候所九郎右衛門様御尤ニ思召候事
尚又御老役様へ御伺被遣候ハ、「
夫より榮治郎様へ伺ニ罷出候事

一四日夕九郎右衛門様へ罷出弥明日ハ

51

今般安十郎様御祝儀ニ付肴一種献上

仕候哉と相伺申上候處、九郎右衛門様より被仰聞
候ハ御老役様御飛露被為遣候之由、則
献上もの用意申候事

一五日昼時ニ御上屋敷へ罷出候處早

五郎右衛門様も源藏様も被成御帰候由
被仰聞左様御座候ハヽ、明朝罷出度
と申上候得ハ九郎右衛門様可被然候由被仰
罷帰候事

52

一六日朝飯後早々上下^{ニ而}御上屋敷へ

53

献上もの家来ニ為持罷出候、則御坊
主頭を以指出申候、暫有テ御老役様
御兩人御逢被成、今般安十郎様御祝義
付着被進候處、則披露申候と被仰付
罷帰候事

一七日

54

一 八日萩村様へ御伺ニ罷出候處、段々御懇意
其上又々御地走被仰付内願之趣逐一
御聞届被為遊候事

同日五郎右衛門様へ罷出候處御客來有之
明日罷出候様ニ被仰付罷帰候事

同日源藏様へ罷出候處御留主ニ而不掛御目
罷帰候事

一 九日興禪寺へ致參詣、夫より御下屋敷

55

五郎右衛門様江罷出候處、御逢被出万々
委布申上候處一々御承知被遣候事

今夕源藏様へ罷出候處御逢被出具
内願之趣申上候處御懇意ニ被仰付候事

一 十日朝早々五郎右衛門様口上書持參仕候而
御取次を以指出申上候事

同日朝源左衛門様へ罷出掛御目、又々
何角申上置候事

56

一十一日朝夕源左衛門様罷出

源藏様へ罷出候處御逢被出何角内願之
筋御内々御評義之次第被仰聞逐一返答仕
罷帰夫五郎右衛門様へ罷出候處御氣分悪しく
依之御逢不被成罷帰候事并九郎右衛門様へ

御伺ニ罷出候處是又御留來ニ而罷帰候事

一 十二日早朝九郎右衛門様へ罷出候處御客來ニ付
夕飯後罷出候様被仰聞罷帰候、其序ニ
亘様御下屋敷若原氏へ參候處御寺參ニ而

不掛御目、夫より小川氏へ罷出候處重而罷出候

様被申候□罷帰候事

同日夕方九郎右衛門様へ罷出候處被成御逢

願之趣致催促并魚鳥口錢目録等

掛御目置候事

十三日少々氣分悪しく引籠申候事

十四日 同断

十五日 同断

一十六日 同断

一十七日まにさんへ参詣、尤三六郎兵衛と

平の屋内義と同道いたし夜ル五ツ

時^ニ罷帰候事

一十八日夕草野様利三郎同道^ニて

罷出候事

一十九日九郎右衛門様へ罷出候處御逢被成

願之趣致催促候處兔角干鰯

口錢之義ハ埒明不申候由被仰聞候

^ニ付右魚口錢之義又々申上置候

59

并米子より相廻申候問屋共より年々
奉公請状誓詞等入御覽申候處

正しき事と被思召候也

同日五郎右衛門様源藏様^江も罷出候得共

不掛御目罷帰候事

一十八日亘様御家臣若原氏小川氏へ

罷出候得共懸違不掛御目罷帰候事

一廿日明日嘉吉一寸米子へ返し申候□

書狀相認候故出勤不申事

一廿一日朝飯後嘉吉一寸指返申候事

然候處夜前より大雪^ニ而余程降つも

り候事

一廿二日朝飯後早々亘様御下屋敷

兩家へ参、夫より御上様御下屋敷^ニ而

60

牛尾氏両家上村様草様へ□

申候處暫く掛違罷帰候事、尤

源藏様へハ五郎右衛門様御内々ニテ

6 1

御目ニカヽリ申候事

一廿三日先達而米屋利三郎を以

池田多仲様江御出入被仰附候様願候處

廿三日暮方ニ願之通被仰付候由、利三郎より
申聞セ候ニ付、則刻利三郎と同道仕

いもし町御下屋敷御家老中村四郎兵衛様方へ

御請ニ罷出并御屋敷之内ニ而御目附衆二人

尾関藤兵衛様永田忠太夫様并ニ

6 2

篠塚権太夫様此仁ハ右御出入之義段々

御世話ニ預り申候付相勤ル

一廿四日夕飯後池田様御内四軒江

鰯壱連つゝ私持參仕候事

一同日亘様御下屋敷ヘ罷出候得共又々

掛違申候事

一九郎右衛門様ヘ罷出候得共未御帰不被成候事

一同夕罷出候得共御客來ニ付不掛

6 3

御目罷帰候、尤多仲様より御出入被仰付候
義ハ申上候事

一廿五日朝飯後源藏様ヘ御伺ニ罷出候處
源藏様ヘ罷出候處、明朝罷出候様被仰渡候
事

一廿六日早天ニ源藏様ヘ罷出候處掛御目
ゆる／＼何角御窺申上候、源藏様被
仰聞候ニ付、扱々其方兼而願之趣も

御用多ニ付今以米子表ヘ不申遣候、尤
書状草案等ハ相認置申候間、内々
御見被遊度候由被仰聞、其段重々

6 4

難有奉存候と申上置候事、并ニ
多仲様より御出入被仰付候事申上置候

65

且又先達而御老中様へ御用銀之義
御家臣様方へ此方御老役様より被
仰遣候節之御返報被仰付候様ニ
相願申候處、其段安き事と被仰候事
拵又問屋治右衛門より年々祖父代々
入置候誓詞并奉公證文右二通

66

源藏様へ入御覽申候處、預度之趣
被仰候付、則右二通源藏様へ指出シ

置罷帰申候事

一同日朝米屋利三郎帰国内町市右衛門
同道ニ而尤罷帰候時源藏様被口候ニ付口

得其意不申候事

一大晦日夜前より大雪近所へも歩行難相成候
得共ふんこみニ而早朝ニ御下屋敷五郎右衛門様
源藏様九郎右衛門様源左衛門様へ歳暮
御伺ニ罷出候處、九郎右衛門様ニ掛御目申候而

67

御上様へ年始御礼御目見等之義相伺

申置候事并源左衛門様ニも掛御目

何角□□□ゆる／＼被仰聞候事

罷帰夫より三田屋六郎兵衛方ニ参ゆる／＼
預地走申候事

68

一 天明六年午正月元日早天麻上下ニ而

御上様御役懸へ年頭御礼罷出候事、尤

御上様より拝領仕候御紋之御上下ニ而先ツハ

明方故清二郎方へ參、夫より別紙帳面之通

扇子壱箱宛致持參候事、御下屋敷

牛尾御両家上村草野東氏夫より
水原寺鳴

御中屋敷高坂馬渕岡本氏夫より又

69

御向屋敷萩村様へ先之旅宿へ罷帰候

尤金左衛門様と利右衛門^二ハ掛御目申候事

并五郎右衛門様源藏様^二鹿の海道宗門

際^{二而}掛御目申候事

一
二日

一
三日御上様御内御□人様方御中小性衆

御從士衆小人至迄不殘年頭饋盃

相廻申候事、尤道中^{二而}源左衛門様并

弥二郎兵衛様^二掛御目罷帰候事

7 1

一
十八日之夕源藏様御伺^二罷出候處、少々

御氣分御勝不被成候^二付、明夕^{二而}も罷出候様^二

清兵衛殿を以被仰聞□罷帰候事

同夕五郎右衛門様^二罷出候處、是又御不快

故重^而不罷出候様被仰聞候事

同夕九郎右衛門様^二掛御目寛々何角

申上候事

同夕源左衛門様^二罷出候處御逢被遣段々

御地走被仰付、何角ゆる／＼申上候^而罷帰候事

7 2

何角御懇意不大形候事

一
廿六日之夕九郎右衛門様^二罷出候處

御留守、夫より源藏様^二罷出候處、是又

御留守^{二而}五郎右衛門様^二罷出候處

御内^二在宅之由依之御伺申上度

7 3

取次衆を以申上候處、被仰出候^二付
明日米子表之飛脚指返候^二付

悉御用も就夫源藏様も御出被成候由
重^而罷出候ハヽ、御逢も被下由取次衆
被申候^二付、左様なれば重^而參上可

申上候と返答いたし帰候事

一
同夕源左衛門様^二罷出候處即刻

御逢被下候^二付何角申上候處

御逢被下候^二付何角申上候處

至極尤之事と被仰聞候并ニ

私より申上候者近々作州木山様へ
参詣仕度と申上候處左様なラは
九郎右衛門様相断可罷出旨被仰

聞候奉畏候と申上候事

一 廿七日ハ不成就日故出勤不申候事

一 廿八日夕九郎右衛門様へ罷出候處
又々御留主ニテ又源藏様へ罷出

候得共米子への御用書等御認被成候故
難御逢被遊候旨被仰出重而

御左右被仰聞候旨、又々

五郎右衛門様罷出候處少々御氣分

御勝不被遊、重御逢被成度被仰出

候故罷帰候事、夫より木村様へ

罷出帰候事

一 廿九日之夕九郎右衛門様へ御伺罷出候處
掛御目候處九郎右衛門様より被仰聞候ニ者
此間源藏五郎右衛門方へ被參候哉と御尋

被成候、私より申上候ニハ此間両度罷出候得共
折悪しく御座候ニ付御逢被遣候と申上候得ハ
左様ならば先ツ私より内々ニ而御知らせ可申
と被仰聞候義ハ此間ハ米子表より其方

内願之趣返答有之候處至而六ヶ敷

申越候、剩當方役人中へ耳当り成ル

返答至候迷惑成事也、其方願ニ

限り格別ニ執成申候事有間敷候事杯と

申遣中之口上ニ覺不申候と尤指貫屋

位頼母志一番□等存寄も有之由依之

当所より申遣書面案紙并米子表より之

返翰等も其方へ老役共より一覽

有之様ニと申候事、乍併未何之事も

無之委細不申入候ハヽ又存寄も有之事候哉

先日之私より出申候事極内々と被仰聞

右之趣九郎右衛門様被仰聞候事

依之私より返答其段荒増同苗方より

此間申遣候得共先達ニも申上候此度

ハ私家苗無覚束奉存候間左様成

御返答并頼母志杯之事被仰出

候而中々得罷帰不申候、尤思召之段

重々難有仕合奉存候、何様善悪、

79

之義近々被仰渡可被遣奉願候

尤乍此上兎角宜御慈悲候様數多之

家族及渴命不申候様奉頼上候

と申上候處其段委曲承知と被仰聞候

且又此度大望ニ付作州木山天皇ヘ

心願御座候間參詣仕度奉願上候、尤日數

十五日程御免被仰付候ハヽ難有奉存候と

相願候處夫ハ至而相成間敷候、畢竟

80

当處ヘ出府、又余所ヘハ難參様ニ

被存と被仰聞候ニ付私より又々

申上候者右様被思召候ハヽ先ツ御役外ニ而

御談被遊可被遣、何卒御聴届被遊候様ニ

奉願上候と申上置罷帰候事

一

二月二日之夕九郎右衛門様へ御伺ニ罷出候處

御逢被下被仰聞ニハ其許内願之趣も先日

米子より返答申遣候得共六ヶ敷相聞候ニ付又々

押返し宜評義致し申候由老役共より

81

申遣今日共ハ米子表御至着候と被存候と

被仰聞重々難有奉存候と申上候、且又

此間内々作州へ被參度旨其段内々

評義申候得共先達而私より申候通此義ハ

至而相成不申候事、左様相心得可被申候乍併

極内ニ而一寸參詣被致候而も不苦様被存候

其段石田儀兵衛殿へ内々相頼申候様ニ

被仰聞奉畏即刻石田氏へ罷出

右之趣相頼候處、逐一呑込被申候付

何様明日一寸旅宿致御尋向候筈と

82

約束いたし罷帰候事

同夕栄治郎様へ罷出及内談申候事

同三日

同四日明六ツ時^ニ木山参詣^ニ出立其夜
四ツ時^ニ由良村丈吉方^ニ一宿、翌五日
早天^ニ出立其夜五ツ時帰着仕候

六月七日滞留

一八日朝六ツ時^ニ出足、其夜長瀬村迄

罷帰、翌九日七ツ時^ニ鳥取へ帰着申候

同日夕内々着届ケ^ニ九郎右衛門様へ
罷出申上置候事

一一日之夕九郎右衛門様へ罷出候處掛御目
何角承合候處、何分御老役様方江^モ
相伺可申候と被仰聞候事

一二日夕源藏様へ罷出、掛御目申候
處、何角九郎右衛門より先達^而米子表
83

首尾承被申候哉と被仰聞候事

尤近日又々達

御聴其上^ニ而評義いたし申候由被仰候
左様ならは近日御伺^ニ罷出度由
申上罷帰候事

一 同夕五郎右衛門様へ罷出候處^{■■■}
一 御留守之由罷帰候事

一十六日今般五郎右衛門様奥方様

84

御祝年^ニ付右祝鯛として大鯉一喉酒式升入
進上仕候并源左衛門様御方^ニ而も當年
御後室様百歳之御祝被遊候^ニ付何ぞ御歎も
申上度所存^ニ候處、先達^而清治郎を以
源左衛門様被仰候^{ニハ}政太郎より祝申候處

85

迷惑申候間断申候由被仰候^ニ付時候之

伺として大鯉壱本指上候所夫を

御祝鯛御受被下使之者江も御祝義等

被遣候事

86

一 九郎右衛門様も四十二之御祝年^ニ付大鯉一本并酒壱樽指上候處使之者御祝義

被遣候事

一 十八日七ツ時五郎右衛門様より今晚罷出候

様^ニ被仰遣奉畏候と返答仕暮早々

罷出候處玄関へ通候由被仰出、暫く相待居申候内^ニ五郎右衛門様御逢被成四方山の御咄、扱私願之趣被仰出候内々逐一

87

被仰聞候^ニハ其許願之趣も右千鰯之口錢^ニ之義御公儀へ御願被申候義重キ事両国灘相懸候義ハ相成不申候様

^ニも旦那様^ニも被為思召候、依之其許難渋御救之ため先規之家禄等

之義彼是と旧冬已來其許へ申入候

^ニ付□角宜様^ニ被申候^ニ付其趣

旦那様へ御伺申上御意之趣米子表へ申遣候處以之外返答何とも致迷

88

惑申候、尤ひらきなをり候^而も又々米子へ

申遣事も有之候得共、畢竟左様ハ

相成候^而も却^而其許為^ニも悪しく候

様成外指こらへ申候事、元來此度

魚口錢之評義申遣候義、全以其許

願被申事候^ニ而ハ無之、右千鰯口錢

御面倒^ニ被思召、依之如何様共仕

政太郎難渋相凌申候様評義仕候様

被仰出候付、右之次第米子表へ

89

申遣候夫迄酒屋や銘共よりまひなひ

^ニ而^ニも取捨別^ニ世話致候様^ニ心得違

と存候と被仰聞候付私より申上候義ハ
御意之通米子表御役人様被思召

米子表江干鰯口錢と偽り御当地へ

罷出候而魚鳥口錢之義押而御願

申上候義ハ先年親九右衛門直訴も同様
表より三十年余も御用等相勤不調法
も無之者共御取上政太郎へ先規之通

90

杯ハ至而相成不申候、不入願杯と被仰聞候
趣、先達而内々同苗方より申遣候
左候得ハ如何候、此上御心配被為遣候而も
逆私願之筋ハ相立不申候、夫押而御願
申上候而ハ却而弥御苦勞を懸候様相成申候
此上ハ善とも惡とも米子表より返翰も
御座候ハ、一日早く被仰渡可被遣素り
私家も是切と相定、則当月廿四日

祖父九右衛門相果三十三年ニ相当申候

91

當時三十三年至極之及難渋候義、米子
表御取計故、偏殘念ニ奉存候、然ルニ□□
数多家族頭者共一人宛養育□□
頼□候、当年七歳ニ相成候第一人同年ニ
相成候忤一人菩提所之寺方小僧
相頼申遣候、尤今以返答無御座候
右之趣□候得共乍去旧年
御上様□御用借之義大山之如く難有奉存候
并尊前様始当地御役人様ニハ

92

御先代様御由緒之義被為思召
并私難渋之趣御不便ニ被思召ニハ
色々御心配主ト被遣候義ハたとへ此度私身ハ
又内々相成候モ誠此迄先規通
蒙仰候も同様冥加至極難有仕合
奉存候間先刻申上候通此上ハ無拠
次第御坐候間善惡之儀急々
被仰渡可被遣奉願候と申上候

又々五郎右衛門様被仰聞ニ而至極

93

尤成事成り、乍併如何様相成候銘々
より此納口へ付不申候而も所全相済不申候間
左様相心得可被申候と可被仰聞、尤
米子表意味違之義ハ幾重ニも致承知
居申候なれハ氣遣有之間敷
念頃ニ被仰聞重々難有候間此上
大変相成不申候様難渋御救被遊可遣
奉願上候と申上候處、可被承知候被□
尤此義ハ外へもらし不申候と被仰聞
94

奉畏候と申上候、且又五郎右衛門様より
被仰候ニハ此程妻祝年之義及聞ニ而
此間ハ被入念ニ而□事着等被呉、近頃
致迷惑申候、祝納申候、夫ニ付今晚
何も無之候得共一寸盃申度由妻共
申候間、勝手へ通被呉候と被仰聞此段
じたい申上候も又内々存難有と申上
夫より奥へ御同道被遊候、奥様始
御家内様不残御逢被遣

95

段々御懇意被仰付夫より被入念候而
一汁七菜之御料理ニ而段々酒宴
及長座、夫結構成菓子并奥様より
怍ハ遣候様と被仰乍恐

御上御前様御細工之楊枝さし
切紙入たばこ入等被遣難有奉存候
頂戴仕候而罷帰候事并家来
江迄ニも御馳走被仰附候事

96

一十九日昼時源藏様より呼被遣、即刻
罷出候處御座敷へ御通し被遊ニ而今日
呼遣義ハ兼而願之義ニ付極内申入度
義有之候間近くへ寄候様ニ被仰聞御向問
ニ而ひそかに被仰聞候ニハ扱々其許

兼而干か口錢願之義ハ弥以相成不申候
様ニ被為思召、尤極難済故此度以

御慈悲御恵ミ被仰出候間近日九郎右衛門より

97

御上意之趣申渡候間左様ニ相心得

可申と御内々被仰聞候ニ付私より申上

候ニハ右干か口錢願之筋御公儀へ御指出シ
被為遣かたくニ付生憑私難済御救之為

今般御恵ミ被仰付候義ハ身余り

外聞実儀相立重々冥加至極難有

奉存上候と申上候處、源藏様より被仰聞候

ニハ此度御恵ミ之申入候義も余之義ニハ

98

無之、下問屋共へ被遣候式歩之所其方へ

壹歩已來其許ヘハ四歩宛相納申候

下問屋共へ術五朱宛ニ相成申候事、尤

已後隨分何等ニ不限下問屋共其許ヘ

隨ひ申候由御意之趣是又申遣候

間左様相心得可被申与被仰聞候

扱々無限難有仕合奉存候と申上候

且又私より申上候義ハ万一千米子表ニ而

99

先年之通違変之筋御座候ハ、何とも

外聞相立不申候、其節ハ如何仕候哉と

申上候處、源藏様より被仰候ニハ其氣遣ハ

少しも無之、此度御上様思召を以

御恵ミ被仰付候事、其上不返答ニ

御上対し不相済、若又左様義も

有之候ハ、即刻当地可被出、此義ハ

銘々受合申候と被仰聞候、左様

ならば御願迄と罷出候而御了意

100

可申上と御暇乞仕罷候事

一同日五郎右衛門様へ昨晩之御礼伺公仕候
處、折節指合ニ付御合不被遣源内殿へ
対し申上置罷候事

一 廿日早朝源藏様へ昨日之返答ニ

罷出候處御逢被成私申上候ハ昨日ハ段々

御懇意被仰付并御内々被仰聞候趣

一々奉畏候、此上何角と申上義も却而

御厚恩忘却ニも相当り申候間御恵ニ

101

被為仰出候ハ、違拌不仕候、冥加至極難有
奉存候、御請申上度奉存候、尤下問屋
共儀心得違不仕候様乍此上奉願候
并昨日申上候通少しニ而も相違之節決而
御受不仕候間其節即刻直訴仕候
間左様ニ被思召可被成候と申上候處
其段ハ氣遣有間敷私より訛立
可申候、被仰聞左様なら者今日ニ而も
九郎右衛門様より御意之趣表向

102

被仰渡候様御評義奉願上候と
申上候處、委細承知と被仰罷帰候事
一同日七ツ時九郎右衛門様より呼被遣
罷出候處被仰渡候ニハ其許兼而
御公儀へ御願被申度干か口錢之義
旧冬御上様ニも段々御心勞ニ被思召
候得共重事故弥以不相成候旨被

103

仰出候、尤其許難渋之次第御不便ニ
被為思召、依之此度御慈悲を以
御恵ニ被為仰附候、尤御恵之次第
之義米子表ニ而申渡候間御請可被申候と
并干か願書も彼地ニ而おひて受取可申候と申
九郎右衛門様より被仰渡候ニ付私より
申上サル去年由來御願申上候サリ、則東今迄も
私より申上候ハ乍恐去秋已來
御公儀へ御願申上度干か口錢取之義ハ

104

弥以御評義被為仰付かたくニ付今般
御慈悲以難渋為御救之御恵ニ被為仰付

御義ハ余身冥加至極重々難有仕合奉存上候
左様も御座候ハ、近日米子表へ罷帰御請

可申上候、尤帰國之節御添并此度

御恵ミ被為仰付候次第御用書も

私迄被仰付可被遣奉願候、且又旧冬
出府仕いまた年頭も乍恐

105

御上様江不奉申上候間何卒近々之内
御目見へ被仰付候様奉願上候と

九郎右衛門様御願申上候處至極尤ニ被思召

何分明日ニ而も評義可被遣度由被仰候
且又御役外ニ而何角申上候處源藏様

同様ニ一々被仰聞候事

一 同朝源藏様より帰懸三源左衛門様江
罷出候而源藏様より昨日已來被仰聞候
趣一々申上候處此度ハ先心□御請

106

申上可然様被仰聞何様近夕
ゆる／＼と被仰聞候事

一 十日七ツ時ニ池田様御内篠塚權太夫様より
御使口上之趣旧冬御手紙之趣致承知候
處、尤近來迄御穩便□申入候何様此辺へ
御出候ハ、一寸御立寄被下との口上故私より

返答ニハ被入御念候御使御口上之趣奉畏候
早春已來御伺ニ罷出候筈之處昨日迄

些指控居申候事も御座候故□失礼仕候

107

何様今晚御伺ニ罷出可申上候間左様ニ
御心得可被遣候と返答いたし

夫より夜入早々伺公いたし候處御留主ニ而
不掛御目罷帰候事

一 十一日

108

一 十二日池田様御内權太夫様へ罷出候處
御逢被下始而掛御目何角申上候處、具ニ
御承知ニ而御座候、右ニ付此度御出入之

義^ニ付肴一種多仲様^江獻上仕度

并御目見へ之義ハ重^而出府之節^ニ被仰
付候様^ニ願置、且又年頭之義ハ帰国仕
飛脚を以申上度旨申上置候處、一々御承知
之事

109

一 同日七ツ時過^ニ九郎右衛門様より呼被下候^ニ付
即刻罷出候處被仰聞候^ニハ先達^而

御上様^江年始之御目見被仰附候様

御願被申候處御目見江之義ハ旧冬も被仰付
候間此間及夫不申様被為思召候、尤例年
之通御肴一種獻上之砌^{上下}^ニ被罷出候ハ、
老役中より披露も有之候間其節其方

御式台迄年始御礼之趣可申上と

110

被仰聞候^ニ付奉畏罷帰候事

一 廿三日竹森権兵衛様へ御伺^ニ罷出候處
御上屋敷へ御出勤未御帰宅不被成候^ニ付
口上申置罷帰候事

一 廿四日まに山へ参詣并秋葉山且又

岩愛山へ赤松八幡宮へ参詣之事

一 同夕九郎右衛門様へ罷出候處、御祝年之
御盃被仰付一汁七菜之御料理□□

111

酒肴種々被仰付御菓等迄并茶町住人
木綿取紛^ニ及大酒各々罷帰候事

一 廿五日朝五ツ時麻上下^ニ大鯛式枚献上
物持參御上棧屋敷へ罷出、則

御老役様御披露^ニ年始御礼申上候事
則右之通り御式台へ罷出御帳面^ニ

付もらひ申候事、夫より御役かゝりへ
不残罷出候事

112

一 同日平清同道^ニ寺参、夫より奥谷の
御墓所へ参詣、且又一ノ宮へ参詣夫より
立川の天満口宮へ参、其外多工間堂へ

拵見候事、罷帰候處源藏様より

呼被遣、且又五郎右衛門様よりも呼被遣候付

即刻参上仕候處源藏様も御逢被遣

五郎右衛門様も御逢被成候、先日源藏様より

内々被仰聞も同様と被仰候方故

悉安心仕候事、九郎右衛門様へ

113

昨晩之御礼罷出申置候得共、夫より

赤松八幡宮へ参詣、帰源左衛門様へ

御祝年之御料理被遣候、案内□□□

御請罷出候事

114
1
一廿五日枚村御後室様當年百歳之

御賀付御案内受申候付上下而罷出候處

一汁五菜御料理□□候由并御後室様

御盃頂戴申、夜四ツ過罷帰候事

114

一廿七日朝、五郎右衛門様罷出取次を以口上、且又私義も明後廿九日罷帰度奉存候、御用之義も

御座候ハ、被仰付候様申上候處、五郎右衛門様より

被仰聞候ハ只今出かゝり居申候間明日二而も

罷出候様被仰聞候、且又源藏様へ罷出候處

是又御出かゝり被遊候故、夕飯後罷出候様

被仰聞候事、九郎右衛門様へ罷出候處早

御上屋敷へ御出勤候由依之即刻

御屋敷御勘定場へ罷出掛御目候而

115

明後日帰國仕度旨并御添書等願置

罷帰候事并枚村様へ罷出夜前之

御札申上候、且又明後日帰宅之由申上置候

事、扱又竹森権兵衛様へ罷出候處

御逢被下ゆる／＼申上候事、其外出入門へ

暇乞罷出候事

一 同日多仲様御内篠塚氏へ罷出今般

御出入被仰付候御札之献上もの之事

同申候處勝手次第指出申候よし
被仰聞候事

一 同夕源藏様へ罷出候處忝御逢被下其節
被仰聞候ハ元來親九右衛門家続之節
問屋只今之通相成候節之書付等ハ如何候
哉と被仰候ニ付委曲之義申上候并此度之
義ハ少シも間違ハ無之十ヶ九ツ迄も慥存候
其内返答もいたし候ハ、再答_ニおよひ
申候と被仰聞左様ならは弥安心
仕候、若又間違之節ハ早々当御地へ
參上仕候と申上候得ハ其段御承知

被遊候、隨分罷出候様_ニ被仰聞候事

村市へ用向二品并榮治郎様用向

廿八日弥明廿九日帰國_ニ付同夕御役懸りヘ

暇乞_ニ相廻申候、則五郎右衛門様へ罷出候處御逢被成
ゆる／＼と暇乞申上候、夫より源藏様へ右同断

九郎右衛門も同断源左衛門様も右同断

清巖寺或ハ三田屋共へ暇乞之事

一 廿九日鳥取出足、其夜ハ長瀬_ニ一宿し

翌晦日長瀬出立、同夕御来屋_ニ一宿

翌三月朔日御来屋出足、同八ツ時下り

米子へ着帰、勝田社へ参詣夫より天神橋
之根_ニ而駕籠より下り家来一人召連候_而

帰着届ケ_ニ御老役御両家并御奉行衆

御両家へ罷出、尤鳥府御老役様方より当地

御奉行様当之御添有之候_ニ付十左衛門様

指出申候、小八郎様へハ其段申上候事

一 二日朝之間_ニ御役所廻へみやけものくはり
夫より旧冬已來御祝事御願_ニ庄左衛門様

九之丞様へ十左衛門様小八郎様へ罷出居申候處
同苗藤兵衛より呼_ニ遣罷出候所藤兵衛より中止

申聞候_ニハ只今御役所より是之通_ニ

仰渡候間左様相心得申候由藤兵衛より申聞候
則御書出之写如左

大谷政太郎

其方儀近年勝手向

依難渋御両国灘筋干鰯

口錢取之儀相願候得共

重キ願之儀難被

120

仰付候、依之此度格別之

以御評儀両下問屋

取前口錢之内五朱宛

御取ヶ合壹歩御増被遣

下地二歩_与都合四歩被

仰付候

右之通_ニ御座候_ニ付則、去年

九月五日_ニ指出候千鰯口錢願書ハ

121

則御下シ被遣候事

一 右_ニ付即刻御奉行伊丹十左衛門様

熊沢小八郎様并御老役村瀬庄左衛門様

日置九之丞様_ヘ御請_ニ罷出候事

同三日当日之御札_ニ罷出候事

一 同四日明日八今般之御礼當所御役所_ヘ

申上候_ニ付相應之音物用意之事

一 同五日右今般之為御礼御役所廻候

猶着并一品指遣置候、尤昼時頃_ニ麻

122

上下_{ニ而}熊沢小八郎様_ヘ罷出候處少々

御氣分悪しく候故久右衛門殿_ヘ口上申置候

尤奥様_ヘも申上置候事

一 同日山内右平太様御目附役被成候付

此度御礼罷出候處掛御目申上候事

一 同日庄左衛門様_ヘ罷出候處被成御逢候故

何角ゆる_ノ申上候處首尾宜相成候

而段々御懇意候事

一 同日九之丞様_ヘ罷出候處被成御逢候故

何角ゆる_ノ御懇意被仰聞候事

123

一 同日伊丹十左衛門様へ罷出候處掛御目
今般之御礼申上候事

一 同日伊藤甚兵衛様へ初而御出入申上候^{ニ付}
御後室様奥様にも掛御目預御地走候、尤
私よりも音物羽織表并酒肴致進上候
事

一 同三日鳥取東市右衛門様甚兵衛様方へ
御入来御逗留^{ニ付}乍序掛御目寛
何角申上候事

124 (白紙)

4—33—2

(17と18の間にあつた文書一通)

(端裏書)

「大谷政太郎殿 牛尾九郎右衛門」

今般之御祝儀^{ニ付}

明十三日四ツ時

御目見被仰付

已後御料理被遣候間

御出可有之候、以上

十一月十二日